

**令和4年度実施
(2022年度実施)**

**卒業生アンケート
調査報告書**

**令和4年(2022年)9月
別府大学短期大学部 FD委員会**

はじめに

別府大学短期大学部では、教育の充実と改善に役立てるため、本学卒業生を対象とした卒業生アンケートを実施し、その結果を公開しています。

アンケートの設問は、ディプロマ・ポリシーの①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）を中心とし、その他、本学の教育改善について自由な意見を幅広く回答いただいています。

令和4年度の調査では、2017年度及び2019年度の卒業生を対象とし、68件の回答が寄せられました。卒業生の皆様から頂いた貴重な意見に基づき、本学の教育の見直しと改善にむけた検討を進めてまいります。

最後になりますが、このアンケートに参加いただき、貴重なご意見をいただいた卒業生の皆様に感謝申し上げます。

別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

目次

令和4年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
卒業生アンケート調査結果	2
(1) 食物栄養科調査結果	2
(2) 初等教育科調査結果	8
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの 結果による DP 達成度評価 「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領.....	1 6
食物栄養科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	1 8
1. 教 養（人間性の形成に資する幅広い知識, 技能）	1 8
2. 専門力（専門に関する基本的な知識, 技能）	1 9
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	2 1
初等教育科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価.....	2 3
1. 教 養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	2 3
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	2 4
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	2 5

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第1条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第2条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第3条 調査対象は以下の2つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第4条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第2四半期から第4四半期の一定期間（10日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

卒業生アンケート調査結果

【食物栄養科卒業生】

(1) 食物栄養科調査結果【送付：107人，回収：14人，回収率13.1%】

- 調査対象 2019年度卒業生及び2017年度卒業生
- 発送日 令和4年8月3日（水）
- 回答期限 令和4年8月17日（水）

【I. はじめに基本事項についてお答えください。】

あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2018年3月	7	50.0%
2020年3月	7	50.0%
合計	14	100.0%

現在の職業（職種）をお答えください。

職業（業種）	回答数	割合
栄養士（病院，福祉施設，保育園等）	7	50.0%
栄養士（給食委託業者）	2	14.3%
事務（受付，窓口業務，経理等）	2	14.3%
JA おおいた	1	7.1%
販売員（アクセサリや雑貨）	1	7.1%
無職	1	7.1%
総計	14	100.0%

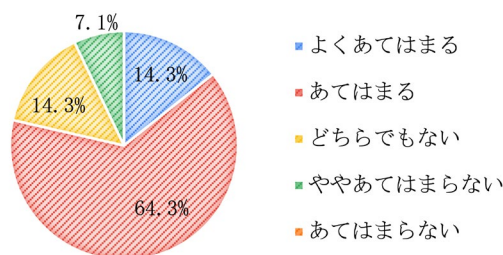
【Ⅱ. 別府大学短期大学部初等教育科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

教養力（人間性の形成に資する幅広い知識，技能）について

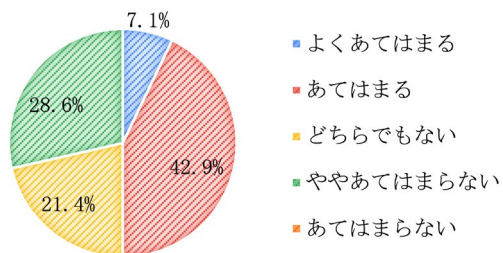
短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	2	14.3%
2:あてはまる	9	64.3%
3:どちらでもない	2	14.3%
4:ややあてはまらない	1	7.1%
5:あてはまらない	0	0%



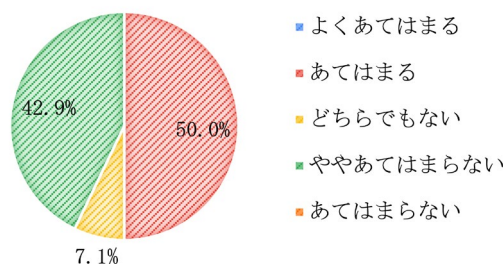
人間の探求や自然の摂理（心理学，生物学，化学），社会の文化（法学，地域社会論）などの基礎的教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	1	7.1%
2:あてはまる	6	42.9%
3:どちらでもない	3	21.4%
4:ややあてはまらない	4	28.6%
5:あてはまらない	0	0%



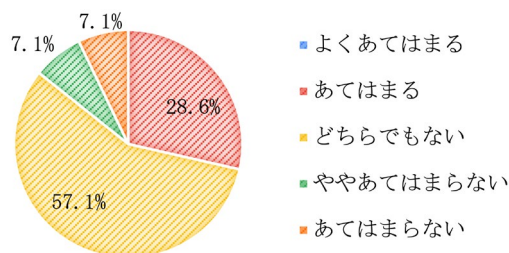
情報処理や外国語（情報機器論，英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	0	0%
2:あてはまる	7	50.0%
3:どちらでもない	1	7.1%
4:ややあてはまらない	6	42.9%
5:あてはまらない	1	0%



運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0%
2：あてはまる	4	28.6%
3：どちらでもない	8	57.1%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	1	7.1%



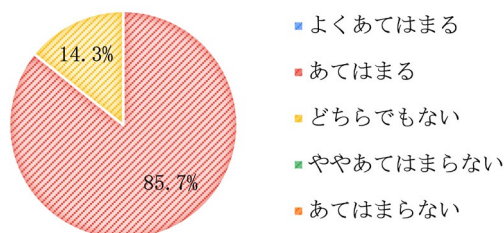
どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・ コミュニケーション能力
- ・ 調理実習
- ・ 会計

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について

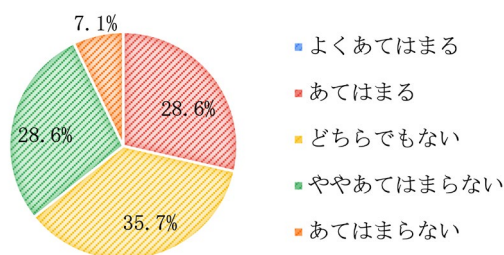
社会生活と健康について基礎的な知識は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0%
2：あてはまる	12	85.7%
3：どちらでもない	2	14.3%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



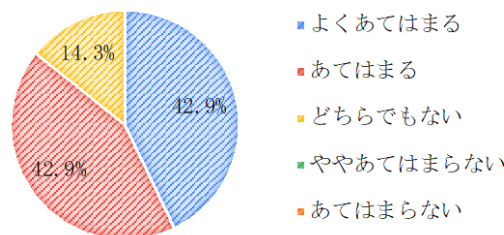
人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0%
2：あてはまる	4	28.6%
3：どちらでもない	5	35.7%
4：ややあてはまらない	4	28.6%
5：あてはまらない	1	7.1%



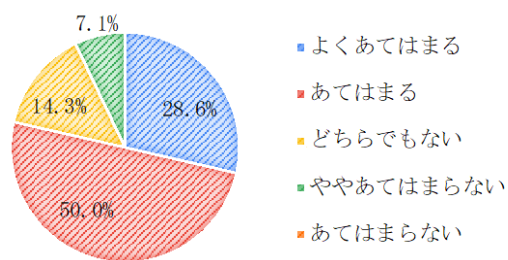
食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	42.9%
2：あてはまる	6	42.9%
3：どちらでもない	2	14.3%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



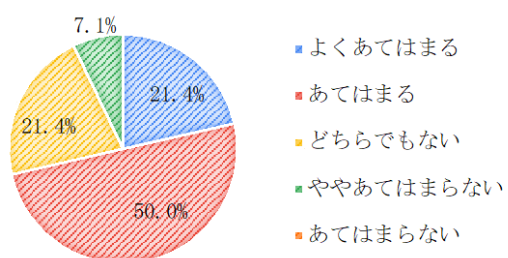
栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	4	28.6%
2: あてはまる	7	50.0%
3: どちらでもない	2	14.3%
4: ややあてはまらない	1	7.1%
5: あてはまらない	0	0.0%



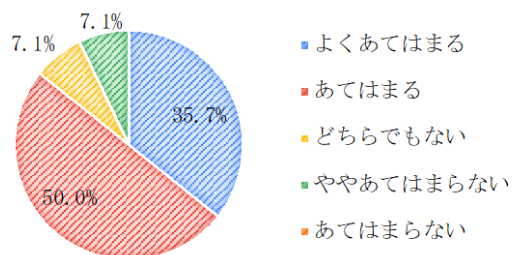
栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	3	21.4%
2: あてはまる	7	50.0%
3: どちらでもない	3	21.4%
4: ややあてはまらない	1	7.1%
5: あてはまらない	0	0.0%



給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	5	35.7%
2: あてはまる	7	50.0%
3: どちらでもない	1	7.1%
4: ややあてはまらない	1	7.1%
5: あてはまらない	0	0.0%



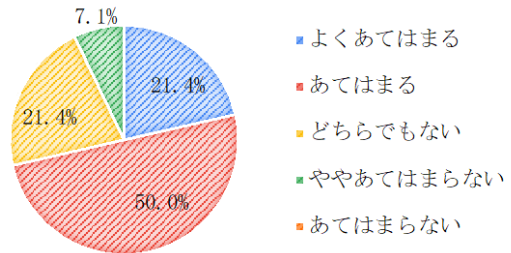
実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ・ 調理実習
- ・ 自分の取りたい科目を無理ではないかと言われ取らなかったことを後悔してる。(目標をもって、もっと勉強に意欲と粘りをもてばよかった。)

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について

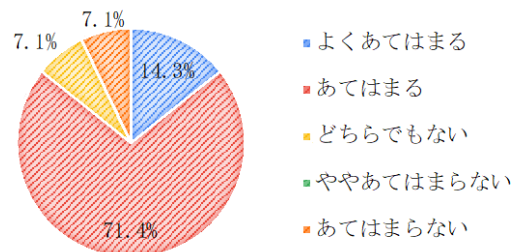
【思考力】論理的に考え分析する能力，常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	21.4%
2：あてはまる	7	50.0%
3：どちらでもない	3	21.4%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



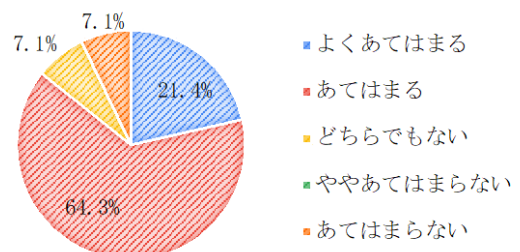
【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに，他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	14.3%
2：あてはまる	10	71.4%
3：どちらでもない	1	7.1%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	1	7.1%



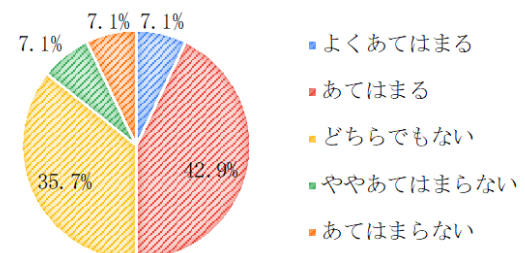
【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力，場面にふさわしい言葉遣いやマナー，振る舞い，コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	21.4%
2：あてはまる	9	64.3%
3：どちらでもない	1	7.1%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	1	7.1%



【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち，図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	7.1%
2：あてはまる	6	42.9%
3：どちらでもない	5	35.7%
4：ややあてはまらない	1	7.1%
5：あてはまらない	1	7.1%



実社会での経験を重ねた今，社会人として必要だと思うもの，短大時代に身につけておけば良かったこと，在學生に身につけて欲しいこと等について，ご意見を自由にご記入ください。

- ・ 臨機応変に対応，行動できるようにしておくとい

その他，ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

回答はありませんでした。

卒業生アンケート調査結果

【初等教育科卒業生】

(2) 初等教育科【送付：379人，回収：54人，回収率14.2%】

- 調査対象 2019年度卒業生及び2017年度卒業生
- 発送日 令和4年8月3日（水）
- 回答期限 令和4年8月17日（水）

【I. はじめに基本事項についてお答えください。】

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2017年9月	1	1.9%
2018年3月	15	27.8%
2019年9月	1	1.9%
2020年3月	37	68.5%
合計	54	100.0%

現在の職業（職種）をお答えください。

職業（業種）	回答数	割合
保育教諭	17	31.5%
保育士	13	24.1%
幼稚園教諭	8	14.8%
小学校教諭	8	14.8%
無職	2	3.7%
事務職	1	1.9%
工事事務	1	1.9%
介護福祉士	1	1.9%
臨時講師	1	1.9%
休職中	1	1.9%
美容	1	1.9%
総計	54	100.0%

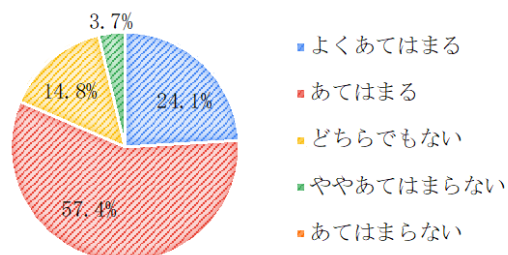
【Ⅱ. 別府大学短期大学部初等教育科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

教養力（人間性の形成に資する幅広い知識，技能）について

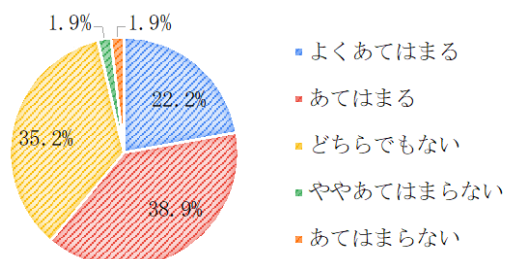
短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	13	24.1%
2:あてはまる	31	57.4%
3:どちらでもない	8	14.8%
4:ややあてはまらない	2	3.7%
5:あてはまらない	0	0.0%



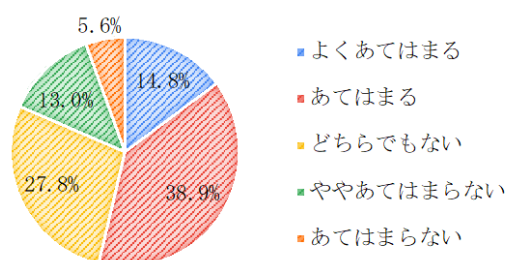
人間の探求や自然の摂理（心理学，生物学，化学），社会の文化（法学，地域社会論）などの基礎的教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	12	22.2%
2:あてはまる	21	38.9%
3:どちらでもない	19	35.2%
4:ややあてはまらない	1	1.9%
5:あてはまらない	1	1.9%



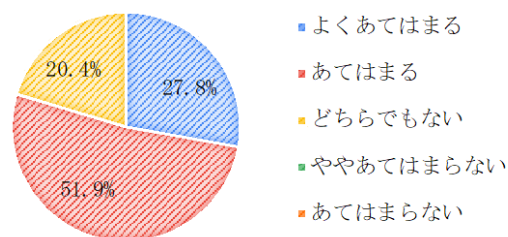
情報処理や外国語（情報機器論，英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	8	14.8%
2:あてはまる	21	38.9%
3:どちらでもない	15	27.8%
4:ややあてはまらない	7	13.0%
5:あてはまらない	3	5.6%



運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	15	27.8%
2：あてはまる	28	51.9%
3：どちらでもない	11	20.4%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	0	0%



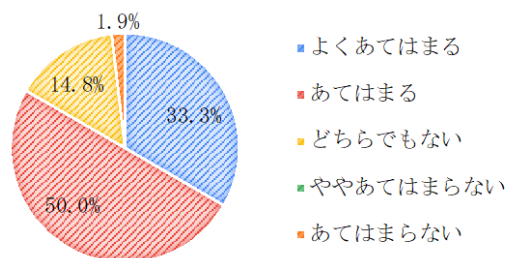
どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・ 人間関係
- ・ パソコンは職場でも使うので、情報処理の勉強はしていてよかったと思う。
- ・ 基本的なパソコンスキル(Word, Excel, PowerPoint を難なく使いこなす力)(ブラインドタッチ入力)
- ・ 基本的な社会人マナー
- ・ 計画する力や、製作を考える力
- ・ 現場にいた先生方の経験から学ぶところがあった。
- ・ 子どもたちの心理についてや、発達障がい支援に関する教育について
- ・ 指導法や情報教育など
- ・ 自分の意見を言葉で伝えられる力
- ・ 実際の実習
- ・ 実習講義
- ・ 社会人としてのマナー 保護者対応
- ・ 就職した際の職に対しての正しい知識と心構え
- ・ 心理学
- ・ 人からの教えを素直に受け入れる力。そしてその中で自分で取捨選択できる力。
- ・ 保育業務の中でも特に機械化が進んでいるので、パソコンには力を入れたらいいかなと思いました。
- ・ 保護者理解
- ・ 臨機応変な対応ができること。
- ・ 礼儀

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について

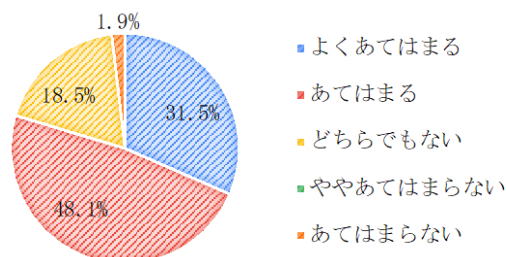
教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	18	33.3%
2：あてはまる	27	50.0%
3：どちらでもない	8	14.8%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	1	1.9%



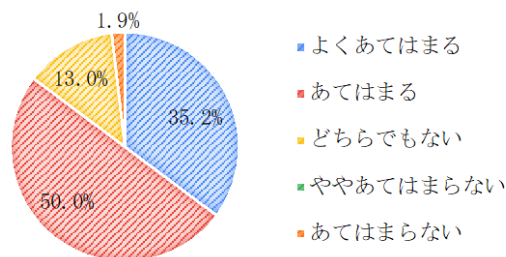
教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	17	31.5%
2：あてはまる	26	48.1%
3：どちらでもない	10	18.5%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	1	1.9%



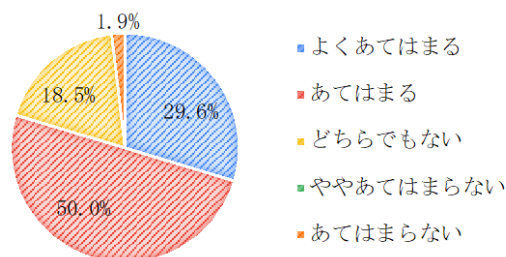
教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	19	35.2%
2：あてはまる	27	50.0%
3：どちらでもない	7	13.0%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	1	1.9%



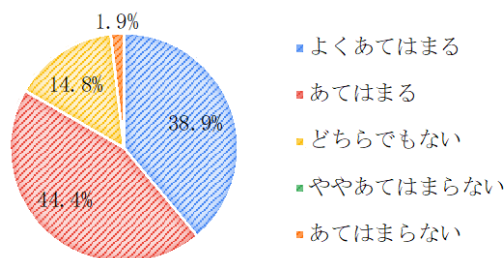
教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	16	29.6%
2：あてはまる	27	50.0%
3：どちらでもない	10	18.5%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	1	1.9%



教育・保育の実際のある場である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	21	38.9%
2: あてはまる	24	44.4%
3: どちらでもない	8	14.8%
4: ややあてはまらない	0	0%
5: あてはまらない	1	1.9%



実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

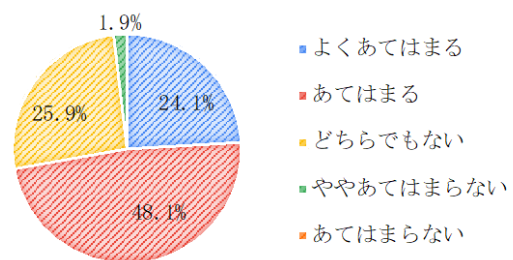
- ・ ピアノの個人レッスン
- ・ 乳児保育での沐浴、調乳などの実践
- ・ 科目名を忘れてしまったのですが、連絡帳や会話での保護者対応(こんな話を保護者からされたらどうするか?を考えて発表したり、グループで話し合いをしたりした記憶があります。)
- ・ 障害児保育
- ・ 5領域で習ったことは、月案などにも活かすことができ、もっと真面目に聞いとくべきだったと思う。
- ・ ピアノ
- ・ ピアノ 保育で絶対使うから
- ・ 音楽と情報処理と造形表現です。音楽も情報処理も未経験だった為授業で習い、そのおかげで現場では子どもたちと弾き歌いを楽しくする事が出来ています!パソコンでは、クラスだよりや個別、週案、月案、研修の資料とたくさんWordやExcelを使うので情報処理で学んでいて良かったと思いました。
- ・ 造形表現では、年齢に沿った遊びや製作があることを学び授業で習った製作などを実際に子どもたちと作り喜んでもらえるので必要だなと感じました。
- ・ 教育実習
- ・ 経験をたくさんする中で、自信に繋がった。
- ・ 子どもとの関わる事が1番勉強になる。
- ・ 実技がある授業
- ・ 実習、タイピング、ピアノ、先輩の話を聞く時間
- ・ 実習や模擬授業、保護者対応のグループワーク
- ・ 障害児保育 (実際に現場で障害の診断が出た時に専門機関との連携や子供の関わり方に、学生時代の知識プラス、もう少し勉強したかったと感じた。)
- ・ 情報教育や実習では、基本的なパソコンの技術面の習得、子どもたちとの関わり方・授業の仕方、マナーなどを習得できた。
- ・ 心理学 子どもたちの視点になって物事を考える思考を手に入れることが出来た。
- ・ 生活科に関連した授業は、実践が多く、子どもの気持ちになって体験できたので、学ぶものがありました。
- ・ 発達心理学

- ・ 乳児保育，障害児保育。おむつの替え方，特性のある子への対応など，知っておくことが大切で役にたったように感じた。
- ・ 美術と，沐浴やレトルトの試食などがあつた授業(科目名忘れてしまいました…)。美術は色々な表現遊び，感覚遊びなどのアイデアの一つとして役立ち，沐浴などの授業は，未満児クラスに入った時に即実践できる。
また，保護者の方からの悩み相談や家庭との連携の話の中で，食事の面などの話も役に立つ。(レトルトの利点や課題なども踏まえて)

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について

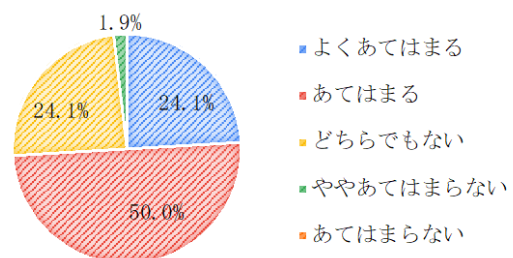
【思考力】論理的に考え分析する能力，常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	13	24.1%
2：あてはまる	26	48.1%
3：どちらでもない	14	25.9%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	1	1.9%



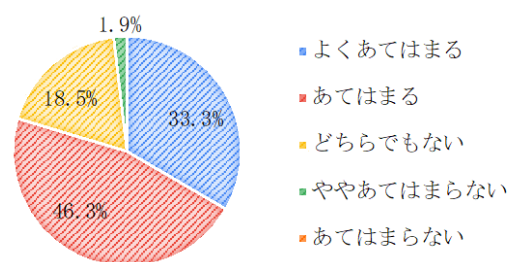
【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに，他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	13	24.1%
2：あてはまる	27	50.0%
3：どちらでもない	13	24.1%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	1	1.9%



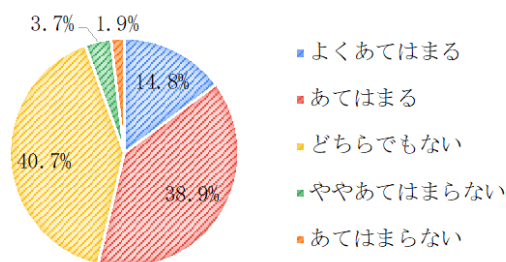
【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力，場面にふさわしい言葉遣いやマナー，振る舞い，コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	18	33.3%
2：あてはまる	25	46.3%
3：どちらでもない	10	18.5%
4：ややあてはまらない	0	0%
5：あてはまらない	1	1.9%



【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	8	14.8%
2：あてはまる	21	38.9%
3：どちらでもない	22	40.7%
4：ややあてはまらない	2	3.7%
5：あてはまらない	1	1.9%



実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在學生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- ・ コミュニケーション能力 ピアノ
 - ・ コミュニケーション能力、敬語の使い方など
 - ・ コミュニケーション能力、分からないことはとにかく聞く、進んで回りを見て動くことが必要だと思う。
 - ・ コミュニケーション能力が大切
 - ・ コミュニケーション力
 - ・ ピアノは、パッと楽譜を見ただけでなんの音か読めるくらいまでなっていた方がいいと思います。あとは、絵本や手遊びのレパートリーを豊富にしたり、折り紙や製作などの知識も深めていた方がいいと思います。様々な遊びについて、知識がある方が断然得だと思います。
 - ・ もっと実習に力を入れておけばよかった
 - ・ 基本的なマナーを身につけることがとても大切だと思う。(クラス担任などさまざまな先生方、実習先とのやり取り、提出物の提出期限厳守など)
 - ・ 言葉遣い礼儀。保育士として働く中で短大の実習生がきてくれることがあり、とても気になったことがあります。挨拶をしない、動かない、実習前の挨拶服装、印象がとても悪いです。
 - ・ 子どもに対して同じ職員に対して。互いにより良い関係を築こうと言う気持ちや、いつでも学ばせてもらっているという感謝の気持ちを持つことが最も必要で大切だと思う。
 - ・ 実習でもっと動いておけばよかった。分からないことだらけで何をしていたかその当時はあまり分からなかったから。
 - ・ 社会人としての基本的なマナー、職場での人間関係に対する対処法など、働き出してあたる壁に対しての適応能力や体験談などを学ぶとよい。やめる人が少なくなるのではと思う。
 - ・ 手遊びやピアノ等を特に練習しておいた方がいい。
 - ・ 小学校の各教科を振り返り、教えられるようにすべきでした。
 - ・ 色々な人との関わりコミュニケーション
 - ・ 短大時代に身につけておけばよかったことは、実際に働く上でもっと授業をよく聞いておけばよかったと思ったり、先生に質問をしに行けばよかったなと思ったりしています。
- 在學生に身につけておいて欲しいことについては、まず挨拶や返事です。実習に来た時などきちんと挨拶が出来ることで印象が変わると思うからです。
- ・ 丁寧で完璧なことは勿論大事だが、学生のように時間が有限なわけでは無いため、期限までにいかに早く構成して仕事を終わられるように進めていけるか、効率性も必要だと思った。保護者へのお知らせを手早くホワイトボードに書くことも多いため、綺麗で読みやすい字やパッと分かり

やすい簡単なイラストがかけると良い。リトミック指導の勉強ができると良いと思った。

小グループに別れて、先生役子ども役に順番になりピアノや楽器を使用してするなど。

- ・ 幅広い人間関係の構築の仕方…保育は女性が多くいる職場で、やはりなかなか女性同士の関わりを円滑にというのは難しい。また女性のみならず、保護者（おかあさんおとうさんおじいちゃんおばあちゃん）と幅広くの人と関わるので、それぞれがそれぞれ違う価値観があるので人間関係は学ぶは難しいと思うが、ボランティア・アルバイト・研究会活動などたくさんの方々と関わることのできる機会を大切にすることが社会へ少しでも役立つと思う。
- ・ 保育現場にでて、壁面製作につまずきました。保育雑誌からコピーして、それを作ってみるといった授業があるとより実践で役に立つと思います。
- ・ 保育士という職の重要性、その責任の重さ
- ・ 保育者としての責任と自覚
- ・ 保護者との対応。ノート書き方。文章力
- ・ 「幼稚園教育要領」の読み込み、実際の姿と照らし合わせる。
- ・ 報・連・相は、働く上で絶対に必要になってくるので、回りの人とコミュニケーションをしっかりと取ることは、学生時代からしっかりしておくべきだと思う。

その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- ・ ありがとうございます。
- ・ もっとしっかりとピアノの練習を頑張ればよかったです。
- ・ 企業主導型保育園への周知を学生の皆様にも伝えて言って欲しい
- ・ 実習は、1年次と2年次が同じ実習先ではなく、生徒が選べると、さまざまな園を知ることができるので、他の大学との差を感じます。今後選択を増やすためにも、ご検討いただくとありがたいです。
- ・ 障がい名を差別用語として使う生徒が多く、どのクラスにもいたのでその部分についての正しい知識と対応の仕方、差別用語として使用してはいけないこと、保育士として働くなら当然やってはいけないことをもっとしっかりとおさえて教育して欲しかったです。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による
DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目，専門 6 項目，汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養，専門，汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点とした P D C A サイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「卒業生アンケート」によるDP達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2017年度と2019年度の卒業生を対象として実施し、昨年度よりも回答数のUPを図った。送付数107人のうち回答人数14人、回収率は13.1%であった。回答人数、回収率ともに前回調査より低下してしまった。今後、調査数や回答人数を多くするように検討し、改善する必要がある。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」の回答が78.6%となり評価を4とした。この結果から、基礎的な教養を身につけることや、建学の精神及び教育目的・教育目標等の理解については、多くの卒業生が肯定的にとらえており、この項目の目的は達成できていると考えられた。

(2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」7.1%、「あてはまる」42.9%で評価の合計は50.0%であったことから評価は2とした。昨年度の「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が51.8%であり、達成状況が低下した。「どちらでもない」21.4%、「ややあてはまらない」28.6%を占めたことから、基礎的教養が専門性の中に活かされることや社会生活を送る上での教養となる必要性を授業者が認識させたうえで学修をすすめていく必要がある。

(3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」0%で「あてはまる」の割合が50.0%であり評価は2とした。昨年度の「よくあてはまる」「あてはまる」の割合は55.5%で達成状況は2年連続で低下した。「ややあてはまらない」という回答が42.9%を占めた。情報処理に関しては後述のアンケート項目である情報力も評価が低い。今年度から、大学においては情報力に関する授業の再編や向上を目指す授業改善が図られていることや外国語の習熟度別クラス編成での授業が始まっており、今後これらの改善が評価向上に寄与することが期待される。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」の合計の評価は28.6%で「どちらでもない」が57.1%であるので、評価を2とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」が70.4%だったので評価が大幅に低下した。ただし、「ややあてはまらない」「あてはまらない」は2名の14.2%であり、この数値は変化ない。教養科目「スポーツと健康」や「体育実技」は履修者が少ないことも「どちらでもない」の回答に影響していると考えられる。専門科目における栄養学的観点から栄養学とともに健康維持・増進に関する基本的知識と技能を身につけていると推察され、栄養士として重要な知識・技能であるため、さらに受講者を増やすとともに学習効果を高めていく必要がある。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

回答数が14名と少なく、十分な評価・考察はできないが、評価点は2～4が得られた。教養力の調査項目に応じて卒業生の評価に差が生じたことが今回の特徴となった。

(1)については学生評価が高く、基礎的な教養が役立っているとの評価であったが、(3)情報処理他を対象とするような具体的な質問内容では「ややあてはまらない」が40%を超える数値となった。社会に出てからの情報処理力の必要性から大学での授業を見直す必要があると考える。また、(2)や(4)の質問には「どちらでもない」との回答が多くを占めた。大学での履修選択段階から将来の必要な力になることなど意識させることが必要であり、学修内容や方法の改善も必要である。特に、(4)は栄養士という資格を持つ卒業生も多いことで、栄養面のみならず健康維持から運動を重要としていることがわかった。

自由記述においては、コミュニケーション能力を向上させる必要を感じたという意見もあり、挨拶など常識的な事も含めて、人間関係づくりやそれから発生するストレスの低減につながる学修を考えていく必要を感じた。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

＜社会的意義＞食物と栄養・健康に関する知識や技術の社会的な意義や、食物と栄養・健康に関する知識や技術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞食物と栄養・健康に関する専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に栄養管理や給食管理、調理の能力を修得している。

(1) 社会生活と健康について基礎的な知識を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」が85.7%と回答し、評価を4とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」の評価は70.4%

	で評価が向上した。(一昨年の数値にもどった)また、「どちらでもない」という評価が14.3%存在するが、卒業生は栄養に関する就職先ばかりではないので、このような回答は一定数出てしまうのかもしれない。少なくとも「あてはまらない」との回答は見られないので、卒業生が一定の社会福祉や健康管理に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。
--	--

(2) 人体の構造と機能についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能を修得している。

評価 (1~4)	理由
2 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」は、28.6%であったのに対し、「どちらでもない」が35.7%となり、「ややあてはまらない」は28.6%であった。評価を2とした。この分野は先の(1)社会生活と健康の問い以上に専門性が高く、栄養士職以外の一般職に就いた卒業生もいて、実際に質問内容を活用する場面がないことがこの結果に影響していると思われる。

(3) 食品と衛生についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」42.9%、「あてはまる」42.9%と回答し合計で85.8%あり、評価は4とした。昨年度と割合も同じである。多くの卒業生が食品と衛生に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、卒業後も役立っていると考えられる。食品と衛生に関する基礎的な知識は栄養士としてはもとより、一般の社会生活においても重要なことであり、継続して学修を充実させていく必要がある。

(4) 栄養と健康についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」28.6%、「あてはまる」50.0%と回答し、合計78.6%で評価は4とした。卒業生は栄養と健康に関する基礎的な知識および技術を概ね修得しており、卒業後も役立っていると考えられる。栄養と健康に関する基礎的な知識は、一般の社会生活においても重要で、今後も継続して学修を充実させていく必要がある。

(5) 栄養の指導についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
3 (4)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」21.4%、「あてはまる」50.0%と回答、合計71.4%で評価は4とした。多くの卒業生が栄養の指導に関する知識や技術が役立っていることがわかった。昨年は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計評価は81.5%だったので評価は少し低下した。回答数からすると1名の差

	であり、就職先にも関係していると考えられる。多くの学生の就職先では、栄養の指導についての学習内容は、概ね知識および技術が修得でき、指導という観点から一般職においても役立っていると考えられる。
--	---

(6) 給食の運営についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
4 (3)	卒業生アンケートで「よくあてはまる」35.7%、「あてはまる」50.0%の合計 85.7%で評価は4とした。回答者は、直接「給食」業務に関わらない一般職も多いこともあるが、給食の運営に関する基礎的な知識および実践的な技術は概ね役立っていると思われる。

専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評	
<p>専門性に関する知識、技能は卒業後に栄養士業務に携わるかどうかで、いかされ方が変わってくるのが考えられる。</p> <p>しかし、今回、専門力の評価は、(2) 人体の構造と技能以外は、3か4であり、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は概ね修得できていると考えられる。「人体の構造」についての評価は、就職先に大きく関係すると考えられる。</p> <p>自由記述に関して、栄養に関する知識、調理、病院実習が有意義であったという意見がほとんどであり、これらの授業、実習がきわめて有効であったことがわかったので、今後とも継続してよい講義、実習となるよう努力したい。</p>	

3. 汎用力 (社会で活躍できる汎用性のある能力) カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価 (1~4)	理由
3 (3)	<p>「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が卒業生は71.4%であった。評価は3とした。大学で身につけた「思考力」が社会でほぼ役立っていると考えられる。</p> <p>一方、卒業生の21.4%が「どちらでもない」と回答した。今後も社会生活に対応できるように、自ら考える思考力、実践力を学生時代に養うことが必要と考える。</p>

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価（１～４）	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」14.3%、「あてはまる」71.4%で合計 85.7%であったことから昨年に引き続き、評価を４とした。回答した卒業生は、大学で身につけた「実行力」が社会である程度役立っていると考えられる。今後も実習、研究会などを通して目標を達成するための実行力を身につけていく必要がある。

（３）表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（１～４）	理 由
4 (4)	「よくあてはまる」21.4%、「あてはまる」64.3%で、評価の合計が 85.7%となったので評価を４とした。今回、回答した卒業生は、大学で身につけた「表現力」が社会である程度役立っていると考えられる。目標を達成するため、今後も授業や研究会活動などを通じて学生の表現力のさらなる向上を促していく必要がある実行力を身につけていく必要がある。

（４）情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書や I C T 機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、P C スキルなどを含む。

評価（１～４）	理 由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は 50%で DP 達成度は 2 とした。この評価は昨年も同様であった。また「ややあてはまらない」「あてはまらない」との回答もあり、図書、I C T 機器を用いて情報を収集する力を身に着けさせることが難しいことが分かる。今後は教養科目を中心とした情報関連科目の改編等がなされており、情報力が向上するよう期待されている。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

実行力、表現力については評価が 4、思考力については評価が 3 となり、この 3 項目については社会で活躍できる概ね修得できていると思われる。

しかし、情報力については、今回もこれまでの調査同様評価が低かった。現在、情報関連に関する授業科目の改編、また、遠隔授業の拡大による P C を活用した情報系の授業も増えていることから、正しく情報を収集する技術を習得し、栄養士としての情報収集分析力の向上が期待される。加えて、情報収集力の向上のための図書や文献の検索方法、活用方法を指導していくことが強く求められる。

初等教育科「卒業生アンケート」によるDP達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2016年度～2019年度の卒業生を対象として回答数のUPを図ったが、送付数404人のうち回答人数は16.8%の68人であった。昨年度調査の回答人数31人、回収率9%より多くはなったが、依然回収率は低く、調査の信頼性に課題が残る。お盆前に自宅に届くように送付する等の検討が必要である。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能） カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は81.5%であった。昨年度より3.8%減少しているものの、8割を超える卒業生が理解していることを示しており、基礎的な教養を身につけ建学の精神及び教育目的・教育目標をほぼ達成できていると考える。

(2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は61.1%であり、昨年度より5.3%増加しており、昨年度より満足度が高まっていることが示された。基礎的教養が専門性の中に活かされることや社会の文化やマナーの大切さについて、引き続き各授業でも折に触れ、伝えていく必要がある。

(3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」回答した割合の合計は53.7%であり、昨年度より3.7%減少している。保育・教育現場でのICT化も年々進んでいる現状から、情報機器の操作や処理能力の必要性が高まっているとの回答もあり、さらに充実した教育内容が求められている。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価（1～4）	理由
3 (3)	運動と健康維持・増進活動の実践技能については、「よくあてはまる・あてはまる」の回答が79.7%と昨年度より3.3%増加しており、過去3年間で年々上昇している。また、「ややあてはまらない」「あてはまらない」という回答が0%となっており、学んだことを実践で十分に活かしているようである。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

今回のアンケートでも回答数が十分ではないため個人差が見られる。全体としての満足度は年々高くなっている傾向にあるが、情報処理に関する教育内容について満足度が低くなっている傾向が見られる。保育・教育業務のICT化により、基本的なパソコンスキルが求められていることが自由記述欄においても多数挙げられており、「情報処理や外国語などの基本的なリテラシー」については指導内容や方法について積極的に見直し・改善する必要がある。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度） カッコ内の数字は昨年度の評点

＜社会的意義＞

教育学のもつ社会的な意義や、教育学を学ぶことによって現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞

教育学の専門教育を通して、職業生活で評価される能力として、特に教育・保育に対する強い情熱、確かな指導力と総合的な人間力を身につけている。

(1) 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいては83.3%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答しており、満足度はかなり高いと言える。保育に必要な情報や知識技能は概ね修得できていると言える。

(2) 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (4)	卒業生アンケートでは、79.6%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、概ね教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義の修得ができていると判断できる。しかし、昨年度より低い数値となっており、改善の必要性がある。

- (3) 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能を修得している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	子どもの成長・発達、保健、栄養、生活の知識や技能について 85.2%の卒業生が「よくあてはまる・あてはまる」としており、昨年度よりも若干減少しているものの、概ね知識技術の修得ができてしていると判断できる。

- (4) 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」と修得しているとの評価が 79.6%であり、昨年度調査より若干低い評価である。自由記述では、有意義だった授業に「ピアノ」「障害児保育」「保育内容」等いくつかの意見もあり、修得に関して満足度は高い。

- (5) 教育・保育の実際のある場である園・学校及び施設での実習により、知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合的に修得している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 84.3%であり、学生の満足度は高い。「教育実習」で、充実した学びがあったとの意見も見られた。引き続きさらなる実習指導の充実を図っていきたい。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力に関する取り組みについて、昨年度より若干低く、4 の評価項目が 3 つ、3 の評価項目が 2 つであったものの、ただ、卒業生の回答は良好で、専門力の修得に関して満足度が高い。引き続き、本学の専門力の修得については、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法等を取り入れるなど、主体性を重んじた体験的・実践的な方法を取り入れた授業展開が必要と思われる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力） カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価（1～4）	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 72.2%であり、昨年度調査の 75%から若干数値が低くなっている。社会に出てからは自ら学ぼうとしたり、自分で課題を見つけ改善したりしようとする思考力を身につけた人材が求められているため、引き続き改善の取り組みを続けていく必要がある。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価（１～４）	理 由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 74.1%であり、昨年度調査の 76.5%から若干数値が低くなっている。働く上で、主体性や他者との協調力が必要であり、教育・保育者としては子どもたちや保護者などの声に耳を傾ける傾聴力が重要である。向上しているので今後も今の取り組みを継続していくことが重要である。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（１～４）	理 由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」が 79.6%であり、昨年度調査の 76.4%から若干数値が向上している。一般の職業においてでももちろんであるが、特に多くの卒業生がついている教育や保育、介護関係の仕事は、コミュニケーションをとることが重要になる職業に就いている。引き続き表現力や豊かなコミュニケーション力を身につけてられるような取り組みを改善しながら続けていく必要がある。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

評価（１～４）	理 由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した者の割合の合計は、53.7%であり、昨年度調査の 55.9%から若干数値が低くなっている。一昨年度調査の 36%に比べれば大きく向上してはいるものの、汎用力においてもっとも低い実態である。国際的な動向に関心を持つ必要性がないと考えていることが理由の一つと考えられる。在学中よりすべてのことが自分の将来や子どもたちの未来につながっていくという意識をもたせ、幅広い視点で興味関心を持ち、自ら情報収集し、関連づけられる態度や情報収集のスキルの向上について授業で強化していく必要がある。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

汎用力の多くが評価3であり、一昨年度調査結果より大きく向上した昨年度調査結果と比べると実態の数値としては大きな変化はないものの、まだ十分に高い値であるとは言えない。特に情報力においては他の調査項目の結果も鑑みて、改善に努める必要がある。学生に我が国や国際社会の現在の動向や問題について自分のことや子どもたちに関わることでありといった関心や問題意識をもたせるように意識した授業を行う。

問題意識をもたせることで、学修の目的意識が高まり、図書や ICT 機器を用いて情報を収集したり、相手にわかりやすく表現して伝えたりしようとする気持ちを高めることができる。それにともない、その取り組み過程で情報収集力や PC スキルも向上する。